いなほ

令和５年１１月６日
令和５年度学校だより NO.29③
加古川市立平荘小学校

狂言学習：お稽古３日目≪NO.1≫

１１月２日（木）に、６年生は、山口先生をお招きして、狂言学習を行いました。稽古の３回目は、後見も加わった稽古となりました。

また、この日は、山口先生が、葛桶（かずらおけ）をもって来てくださいました。その葛桶を使わせていただきながら稽古を進めました。

『猿唄』は、抑揚をつけて謡うようにしましょう。腹筋を使って、お腹がだるくなるぐらいがんばってほしい。

『後見』について

『後見』は、『後見座〔能舞台で、後見が控えている場所。後座（あとざ）の後方部の向かって左手の隅、後見柱の右わきにあたる〕』に座る。

真っすぐに前を向いて、袴に手をしまいます。**後見の役目は、動かないこと。**演じ手の邪魔をしない。姿が見えていても、見えていない状態。**後見がきちっとしないと、演じ手の邪魔をすることになる。**

『附子』の稽古より

後見の立ち居振る舞いの仕方を教えていただきました。
（立ち居振る舞いが美しいです）

桶を置くときは、音を立てない。そーっと置く。真ん中に置くようにします。

主 「・・両人の者おるかやい」
太 次 「はあ ――――――。」

「はあー。」には、意味があります。太郎冠者と次郎冠者が遠くから主人の所に駆けつけたことを表しています。動作では、たった２歩かもしれませんが、「はあー。」という言葉で表します。お腹に力を入れてしっかり声を出しましょう。

意味をもたない言葉をおろそかにしてはいけない。意味をもたない言葉に意味をもたせることが大事です。
太「今日も一人な、**な**。」次「**おお**。」
太「両人とも、**な**。」　次「**おお**。」

長ゼリフを「覚えました」の上にいくようにしましょう。
演じ手は、きちっと観ている人にわかるように説明ができているかが大事です。

太「そりゃ退け、そりゃ退け。」
次「何とした、何とした。」

何がしたいかわかるように演じる。観ている人を無視してはいけない。
ここでは、一大事だ！危ない！危険だ！と危機感を感じさせることが大事です。大きな声で！

自分が発した言葉が、聴いている人に届いているかどうかを確かめるようにしましょう。
自分の言葉を理解してもらうには、何がしたいかが伝わらないと、相手は聴く耳をもってくれない。
自分が意志をもっていると、声の大きさではなく、人は聴いてくれます。
あなたたちは、それができます。なのに、していない。自分からアクションを起こすことが大事です。
演じ手に思いがあれは、人は観てくれます。

特に稽古の段階は、いろんな失敗をしたらいいと思っています。経験をしたらいいと思います。
あえて失敗をし、先生からアドバイスの言葉を引き出すぐらいに！
それぐらい、稽古を大事にしてほしいです。

稽古場は、山口先生や子どもたちの真剣さが常に伝わってきます。